

## 1. ディレクトフォース

初日のディレクトフォースでは、まずは近藤玄大先生による基調講演が行われました。近藤先生は大学の研究室や SONY、自らの会社において義手の開発をなされていました。私はそもそも義手とはどのようなものか実際に見たことがなく、とても興味がありました。従来の義手はヒトと同じ肌色をした義手がほとんどだったそうです。それを見た近藤さんは、義手は欠点を隠すものではなく、まるで服のように…という思いから新しいタイプの義手開発に挑んだそうです。私はその考えにとっても共感しました。もし私が義手をはめることになったら、肌色のものでは毎日の生活に華がなくなってしまうのではないかと思います。また、従来の義手はかなり高価なものばかりでしたが、近藤さんの作る義手はとてもシンプルな構造で、価格もかなり抑えられているときき、素晴らしいと感じました。

その後、班ごとでのグループディスカッションが行われました。私の班では、初めに藤井麻衣先生にお越しいただきました。藤井先生は現在笹川平和財団海洋政策研究所にて「海洋資源の保全等の政策研究」プロジェクトを担当されている方です。もともと藤井先生は国際法に興味があったそうです。そのため、藤井先生は法学部を卒業なされています。また藤井先生は環境省時代にパリ協定の交渉担当もなされていたそうです。そういった場においては英語力とコミュニケーションスキルが必要であるとおっしゃっていました。

次に相馬円香先生にお越しいただきました。相馬先生は現在自ら立ち上げた SOMOS&COMPANY の代表取締役として働いている方です。この SOMOS&COMPANY という会社では「英語×子供」ということで子供に英語を学ばせ、グローバル社会に適した人材を育て、コミュニケーション能力を養うという、いわゆるグローバル教育を行う会社です。相馬さんは外語大を卒業なされていて、英語に慣れ親しんだ生活を送っていたそうです。また、現在の会社を立ち上げる前までは、日産自動車（株）や楽天（株）で働いており、英語力の必要な両社での経験も今の仕事にも生かされているそうです。現在英語は世界共通言語として習得すべき言語となっているそうですが、世界で通用するためにはジェスチャーや伝える力が必要だそうです。また、会社を経営するためのスキルとして上に立つ者の使命感、人のせいにはしない、やりたくないことも経験だと思って、というアドバイスをいただきました。

続いて、川崎有治先生にお越しいただきました。川崎先生は富士フィルムにて欧州本社事業長、富山化学工業では執行役員、日中合弁会社董事長（会長）をされており、ドイツ駐在 14 年、北京在住 2 年という経歴の持ち主です。川崎さんは様々な国で駐在するにあたって、国ごとの歴史や文化を受け入れ、考え方や思想を学ぶことを意識してい

たそうです。また外国で働くには信頼されること、自分自身のアイデンティティをもって相手に伝えられることが重要であるとおっしゃっていました。

## 2. 企業訪問

私は今回、JAXA 相模原キャンパス宇宙科学研究所を訪問させていただきました。宇宙科学研究所とは、主に固体ロケットの打ち上げや人工衛星の運用を行っているところです。今回は広報の村岡さんに担当していただきました。日本のロケットの父といわれる、糸川英夫さん（ペンシルロケットの製作者）もこの宇宙科学研究所出身だそうです。現在 JAXA には宇宙分野に携わる機関として、宇宙科学研究所（ISAS）と宇宙開発事業団（NASDA）の2つの組織があります。この2つの機関の違いはロケットの種類と衛星の運用目的にあります。ISAS では前述したように固体ロケットを、NASDA では液体ロケットを使っています。また衛星は、ISAS では宇宙研究目的で、NASDA では地球観測目的で運用していたそうです。また、今回は特別に運用管制室と呼ばれるところも見学させていただきました。そこでは人工衛星を運用する部屋で、あの‘はやぶさ’もここで管理されていました。また人工衛星‘ひさき’のプロジェクトマネージャーにも合うことができるととても良い経験になったと思います。

## 3. 東大 OBOG 座談会

夜は二高出身の東大生からお話を聞く時間が設けられました。特に東大生からは勉強についての素晴らしいアドバイスを頂きました。東大生の勉強法を聞いてみるととても効率的なものばかりであると感じました。例えば、勉強時間を短くしてやるべきことに集中する、予習よりも復習をする、数学なら公式や論理を理解し、引き出しを多く持って選択肢を増やすこと、といったことなどです。また、授業の取り組みについては、授業時間内に完全理解すること、教科書をしっかりとマスターする、といった自分にも良い刺激となる助言をいただきました。この時間で私は非常に多くのことを吸収することができたのではないかと思います。

## 4. 東京大学駒場・本郷キャンパス見学ツアー

今回の東大見学ツアーは駒場キャンパスも回ることができると聞いて、正直興奮していました。私は駒場キャンパスにはまだ一度も行ったことがありませんでした。駒場キ

キャンパスでは主にキャンパス内をめぐり、図書館を訪れました。日本一の大学とあって設備がすごく整っているし、とても勉強する環境に適していると感じました。その後は Fair wind さんとのワークショップということで自分の進路について見つめなおし、語り合う時間が設けられました。そこでは実際に東大生の方と将来の進路選択をどのようにしていくかなど非常に良いアドバイスをいただけたと思います。

次に、場所を本郷キャンパスに移して、農学部の見学を行いました。今回は高橋先生に担当していただき、3つの研究所を見学させていただきました。動物細胞研制御学、水産化学研究学等の研究室でしたが、どれも見たことのないような研究内容でした。また、研究棟の地下一階にはたくさんの水槽があり、そこには普通によく食べる魚や、あまり見ないような魚が飼育されていました。また魚の種類に合わせ、海水を使ったり淡水を使ったりするなどの工夫がなされていました。この魚は研究や実験材料として使われるそうです。

研究室をのぞかせていただいた後は別の建物に移動して、東大生の方々と勉強の仕方や日頃の生活のしかた、Fair wind の学生さん方の高校生活がどのようなものかなどの質問会がおこなわれました。日本一の頭脳を持つ東大生からは、前日の東大 OB・OG 座談会と同様、これからの学校生活において非常に役立つ、とても充実した実のあるお話を伺うことができました。今回、東大に行ったことで今まで持っていた東大に対するイメージが変わりました。私は東大にはとんでもないような秀才ばかりが集まっている集団だと思いました。ですが、今回のツアーの中で、ワークショップで話を聞いたり、直接学生さんに話を聞いたりして、東大には今のうちから地道に頑張っていけば、合格も不可能ではないのだ、ということを実感することができました。そのような意味でも今回の東大駒場・本郷キャンパス見学ツアーは私にとって大きな意味があったのではないかと思います。

## 5. 今回の東京研修を通して

今回の東京研修を通して主に2つのものを得ることができたと思います。

1つめは、勉強に対する意識です。東大生と触れ合うという貴重な体験を通して、勉強にどうより良い形で取り組めばよいかを吸収することができました。

2つめは、社会での生き方です。社会で豊富な経験をつんだ方から、これからの人生のためになるようなメッセージをいただくことができました。この東京研修で得た経験をしっかりと自分のものにしていきたいと思います。